

令和 7 年 6 月定例会 一般質問

令和 7 年 6 月 12 日（木）

質問者：泰江 まさき 議員



大阪維新の会 大阪府議会議員団の泰江まさきでございます。

通告に従いまして、順次質問させていただきます。

1-1. 万博会場内における暑熱対策

大阪・関西万博が開幕して2カ月が過ぎました。この間、私自身も何度も会場に足を運んでいますが、開幕前の予想を上回る来場者数となっており、入場ゲートやパビリオンだけでなく、売店や給水所等、様々な場所で行列ができています。これから夏を迎える中で、本格的な暑さへの対応が必要であります。博覧会協会では防

災実施計画で暑熱(しょねつ)対策を定めており、今年1月の万博推進特別委員会での質問にて、遮熱性舗装や植栽による地表面の高温防止や、テントやパラソルの設置等による会場内の日陰の創出、東西ゲート前でのスポットエアコン等の設置、自販機などの給水環境の整備などの取組みに加え、熱中症等により体調が悪くなった場合に備え、診療所・応急手当所が設置されることを確認させて頂きました。これから夏に向けて多くの方に安心して会場に来ていただくために、会場内では、これらに加えて、どのような暑熱対策が実施されるのか。

また、パビリオンの前には連日待機列が発生しているなか、各パビリオンでの暑熱対策については、それぞれの出展者が実施することとなっていますが、府市が出展する大阪ヘルスケアパビリオンの暑熱対策はどうなっているのか、併せて万博推進局理事にお伺いいたします。

<万博推進局理事答弁>

○夏に向けた暑熱対策について、博覧会協会は、お示しの取組みのほか、これまで

- ・給水スポットや自動販売機等を記載したマップを公表
- ・第二交通ターミナルからの歩行者動線へのミスト付き扇風機の配置

などを行っており、今月中を目処に

- ・東西ゲート前に追加でウォーターサーバーを設置するなど、
- 気象状況に応じて、対応していくこととしている。

○また、大阪ヘルスケアパビリオンにおいても、

- ・ミストシャワーの設置や、
- ・保水性舗装による地表面の高温防止をはじめ、
- ・日傘の貸出し等

を行っており、今月中には冷風機の設置も予定している。

○引き続き、来場者が安心して万博を楽しんでいただけるよう、協会とも連携しながら、暑熱対策にしっかりと取り組んでいく。

1-2. 高校生向け EXPO 教育プログラム

万博は、次世代の担い手となる子どもたちが、未来社会を体験できる機会です。万博をきっかけに、子どもたちが未来について学び、未来に向かって自ら行動していただきたいと考えています。

未来社会の主人公となる高校生に向けて、大阪府では、万博のテーマやコンセプトを深く理解し、新たなアイデアを創造・発信する担い手となることをめざして、高校生向けの教育プログラムを開発し、全国の学校とも連携して、探求学習の取り組みを進めてきたとのことでした。

本年7月30日には、いよいよ万博会場内で「高校生 EXPO サミット 2025」が実施されます。発表する子どもたちには、学習の成果をいかんなく発揮し、素晴らしい提言を期待しています。

そして、今回の提言を、これまでの教育プログラムの集大成とし、その成果を未来につなげていく必要があると考えますが、万博推進局理事の所見をお伺いいたします。

<万博推進局理事答弁>

- 高校生向け EXPO 教育プログラムについては、教育庁と連携しながら、令和4年度から実施しており、とりわけ令和5年度及び6年度においては、今回の万博のテーマに沿った6つの研究分野に関してアイデアに富んだ提案を発表して頂いた。
- 今年度についても、昨年度の提案を踏まえ、環境問題や健康、文化などの分野について、現在、ワークショップ形式で、関係企業によるサポートや海外参加国の留学生との意見交換も行いながら、発表に向けた準備を進めているところ。
- この3か年に渡る取り組みを、今回の高校生 EXPO サミットの総括とするため、未来社会に向けたメッセージとして取りまとめ、次代を担う子どもたちも含め幅広く発信することで、将来の日常生活に浸透することを大いに期待している。

1-3. 大阪ウィーク真夏の陣「大屋根リング盆踊り」

先月開催された大阪ウィーク「春の陣」では、大阪各地から約40台のだんじり・やぐら・太鼓台・神輿等が集合し、各々がやり回しなどの迫力ある実演を行い、多くの来場者を楽しませました。また、大阪の各地域の伝統芸能や文化、観光や食などを来場者に体験してもらう「地域の魅力発見ツアー」や、市町村等が主催するイベントも多数開催され、約15万人もの方々が来場するなど大盛況に終えたところでした。

続いて、来月には「大阪ウィーク～夏～」が開催され、計11日間にわたり多数

のイベントが実施予定となっております。とりわけ、先日知事から発表された「大屋根リング盆踊り」は、7月28日に世界最大の木造建築物で万博会場のシンボルである大屋根リングの上で、たくさんの参加者が大阪の夏の風物詩である「盆踊り」を踊るものであり、夏の目玉イベントの一つになるものと大いに期待しています。

この「大屋根リング盆踊り」については、参加者だけでなく、多くの一般来場者も楽しめるような内容にしてほしいと考えていますが、どのようなイベントなのか、万博推進局理事にお伺いいたします。

<万博推進局理事答弁>

- 「大屋根リング盆踊り」については、7,000人程度の方々が参加し、リングの上で盆踊りを行っていただくイベントであり、先月末の公募開始以降、当初想定を上回るペースで多くの方々に応募いただいたことから、6月20日の締切を前倒しして募集を終了したところ。
- このイベントでは、参加者により楽しんでもらえるよう、著名な音頭取りや応援団に加え、一般の来場者にもリング下から盆踊りの様子を観覧いただくことや、EXPOアリーナやポップアップステージでも一体感を味わえる企画も検討している。
- この「大屋根リング盆踊り」が、参加者や来場者の記憶に残るイベントとなるよう、引き続き博覧会協会と連携しながら、しっかり準備を進めていく。

1-4. 万博開催中の要人警護時の問題点

大阪・関西万博の開催に伴い、天皇皇后両陛下をはじめ皇室の方々、国内外の要人等が多数来場されております。

私自身も先月、愛子内親王殿下が会場をご視察された際、会場内にて警備の様子を見る機会がありましたが、万全の警備体制ではあるものの、リング下等に一般来場客の人だかりができ、通行路がうまく確保されていない様子を確認しております。

今後も、多数の要人警護の機会があり、要人警護に万全を期していくと承知しておりますが、一般来場者の通行路の確保等を含めた対策をどのように行うかについて警察本部長にお伺いいたします。

<警察本部長答弁>

- 大阪・関西万博の開催期間中、国内外から多数の要人が来訪されているところ、警察では、令和4年7月の安倍元総理銃撃事件及び令和5年4月の岸田前総理に対する爆発物使用襲撃事件を受けて、警護の抜本的強化に取り組んできたところであります。
- 大阪・関西万博会場内においても、一般来場者のご理解とご協力をいただきながら要人の身の安全確保に万全を期しているところでございます。
- 議員ご指摘の来場者の通路・動線の確保については、引き続き、日本国際博覧会協会等と連携しながら周辺の通行路を確保するなど、一般来場者等に配慮した対策を図ってまいります。

引き続きよろしくお願いします。

1-5. 2025 年日本国際博覧会児童・生徒招待事業

大阪・関西万博が開幕し、本日でちょうど2か月となりますが、先日の我が会派の河崎代表の質問にて、既に20万人を超える子どもたちが来ていること、また非常に教育的効果が高いことを改めて確認できました。

そのような中、今回、私からは交通手段についてお伺いいたします。

既に来場した20万人のうち、約半分が貸切バスを利用したの来場、残りの半分が大阪メトロを利用したの来場とお聞きしています。また、大阪メトロを利用した来場については、ほとんどが「子ども専用列車」「子ども優先列車」に乗車したとも聞いています。

このいわゆる「子ども列車」については、子どもたちを安全・安心に会場まで輸送する非常に有効な手段であるものの、その運行は1学期をもって終了し、2学期には運行されないとのことでした。

理由としましては、博覧会協会が公表している「来場者輸送具体方針」いわゆる「アクションプラン」において、会期後半は来場者が非常に多くなることが予想されており、「子ども列車」を運行する余力が見込めないことや、できる限り学校団体に会期の前半に来てもらいたいという思いから、1学期のみの運行としたとお

聞きしています。

ただ、来場者が非常に多くなることが予想される2学期にも多くの子どもたちが大阪メトロを利用することが見込まれているのであれば、尚更「子ども列車」のように安全・安心に会場まで輸送できる手段が必要になるのではないのでしょうか。

そこで、教育庁では、2学期に来場する学校の交通手段についてどのように考えているのか。教育長にお伺いいたします。

<教育長答弁>

- 府教育庁では、博覧会協会が「教育旅行受入の基本的な考え方」として「比較的来場者数が少ない4月から7月を推奨」してきたことを踏まえ、説明会を通じて、8月から10月の来場を希望している学校に対し、安全面を考慮し、4月から7月へ変更されることを推奨してきた。
- しかし、年間行事予定等の事情により、2学期に来場する学校もある。このため、府教育庁では、大阪メトロに対して2学期に来場する児童・生徒数等の情報を提供し、対策の検討を要望したところであり、各学校を安全・安心に万博会場に輸送いただくよう、引き続き調整してまいります。

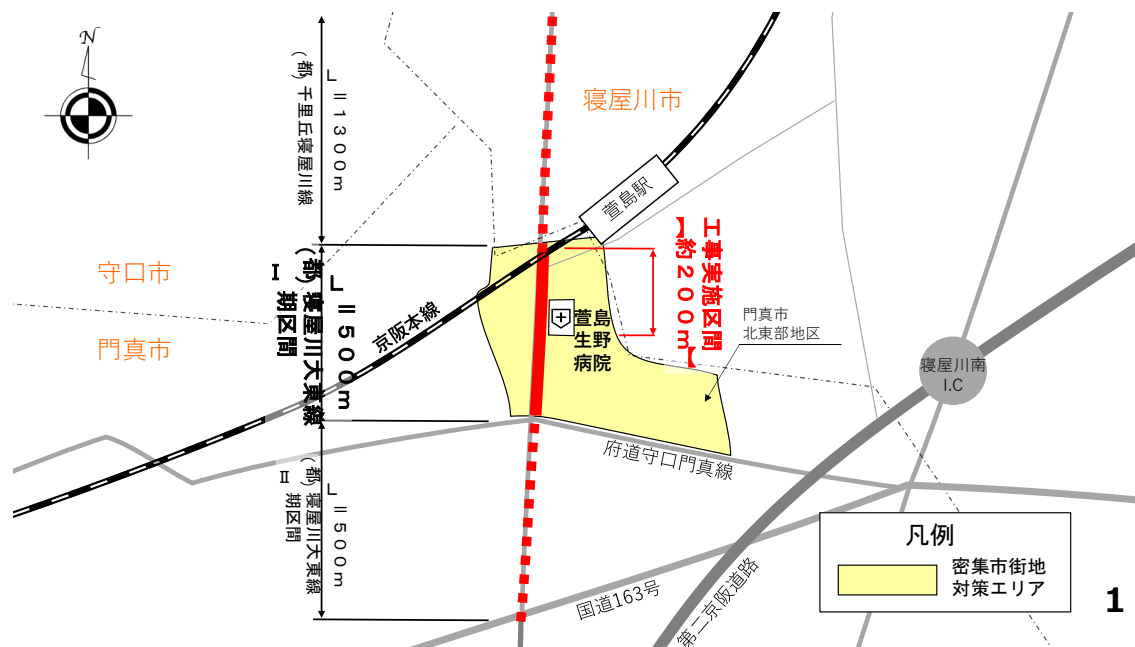
私の地元、門真市では、門真市教育委員会が大変尽力していただいたおかげで、現時点で小・中学校生の9割以上がすでにこの事業に参加し、残り1割も秋には参加して、門真市内の小・中全校全学年の生徒が万博に行く予定となっています。また、子供たちの評判も、大変好評だったとお聞きしています。

そのほとんどが、「子ども専用列車」「子ども優先列車」に乗車して万博会場に行ったとも聞いているところです。

2学期に万博に来場する子どもの安全・安心のためにも、引き続き調整をお願いします。

2. 都市計画道路寝屋川大東線の暫定的な歩道空間の確保

私の地元門真市にある密集市街地では、防災機能を確保するための延焼遮断となる道路として、市域の南北交通を形成する都市計画道路寝屋川大東線の整備が進められています。パネルをご覧ください。



本路線において先行的に着手された、寝屋川市界から府道守口門真線までの用地買収が完了した箇所から順次、工事が進められ、このうち、京阪本線萱島駅から萱島生野病院までの区間については、車道及び歩道がほぼ完成しているように見えるものの、現在も、工事用フェンスで囲われた状態となっています。パネルをご覧ください。



このような状況を踏まえ、地元から、完成している歩道の区間だけでも開放してほしいと枚方土木事務所に要望したところ、土木事務所から、水路改修等の残工事が完了する令和7年度末をメドに開放するとの説明があったと聞いています。地元では、一定理解されたものの、私のところには、依然として地域住民から要望がきています。

「歩道だけでも開放してほしい」。



「バス停付近に滞留スペースを確保してほしい」などの要望が来ています。



残工事があるため、これまで開放してこなかったことは理解するものの、先行的に整備した道路拡幅用地を歩行者の安全と利便性を確保するために活用すべきと考えます。

そこで、寝屋川大東線の進捗状況とすでに整備されている部分の歩道としての暫定的な利用について、都市整備部長にお伺いいたします。

<都市整備部長答弁>

- 都市計画道路寝屋川大東線のうち、寝屋川市界から府道守口門真線までの約 500m 区間については、用地買収が約 8 割完了しており、現在、用地の一部を活用し仮歩道を設置している。
- 京阪本線萱島駅から萱島生野病院までの約 200m 区間については、車道及び歩道の整備が概ね完了しているが、一部区間で水路の改修などについて門真市と協議を進めており、未整備の部分が残っている状況。
- 今後、門真市との協議を鋭意進めるとともに、歩行者等の安全や利便性向上の観点から、地元から要望があった区間については、できるだけ早期に歩道として暫定的に利用いただけるよう、大阪府警察など関係者との協議を進めていく。

寝屋川大東線全体の拡幅工事の完成まで、まだまだ時間がかかります。工事用フェンスで囲ったままだと、空き地が多く見え、地域の発展にもブレーキがかかると

ころです。ぜひ一刻もはやく地域の要望に沿った利用推進をよろしく願いいたします。

3. 一級河川古川の浮遊ごみ対策

私の地元、門真市を流れる一級河川古川は、昭和 30 年代からの都市化に伴う生活雑排水等により、寝屋川流域の中でも特に汚れがひどい河川であったことから、下水道整備や河川の浚渫(しゅんせつ)などに取り組まれてきました。また、平成 2 年には、古川下流の大阪市鶴見区で「国際花と緑の博覧会」が開かれることから、この開催に向け、寝屋川から浄化用水を導入するための古川浄化導水路を築造するなど、関係機関の尽力により、水質は一定改善されてきています。

その一方で、古川は元々農業用水路であったため、流れが緩やかであり、浮遊ごみが滞留しやすいことから、いまだに地域の方々から「古川にごみが浮いている」、「古川をもっときれいにしてほしい」という声を聞くことがあります。水質の改善に向けて、浮遊ごみについても昔に比べると減ってきたとは感じるものの、何らかの対策が必要と考えます。

そこで、古川における浮遊ごみ対策について、都市整備部長にお伺いいたします。

<都市整備部長答弁>

○河川の浮遊ごみは、街中で散乱したごみや道路・河川等へのポイ捨てが主な原因となっており、河川へ流入するごみの削減には、流域全体でごみの発生源対策を進めることが重要。

○そこで、古川を含む寝屋川流域におけるごみの発生源対策としては、令和 4 年 6 月に国・府・流域 12 市で策定した「寝屋川流域水環境改善計画」に基づき、面的な清掃活動を実施するとともに、看板設置、SNS を活用したポイ捨て防止の意識啓発などに取り組んできたところ。

○とりわけ、古川が流れる門真市では、市域の清掃活動として「キラッと！かどま」を実施しており、令和 4 年度からは、集客イベントと併せて実施するなど、多くの方に参加いただくための取組も行われている。府もこのイベントにブースを出展し、クイズ形式で浮遊ごみ問題を学んでいただくなど、意識啓発の取組を実施。

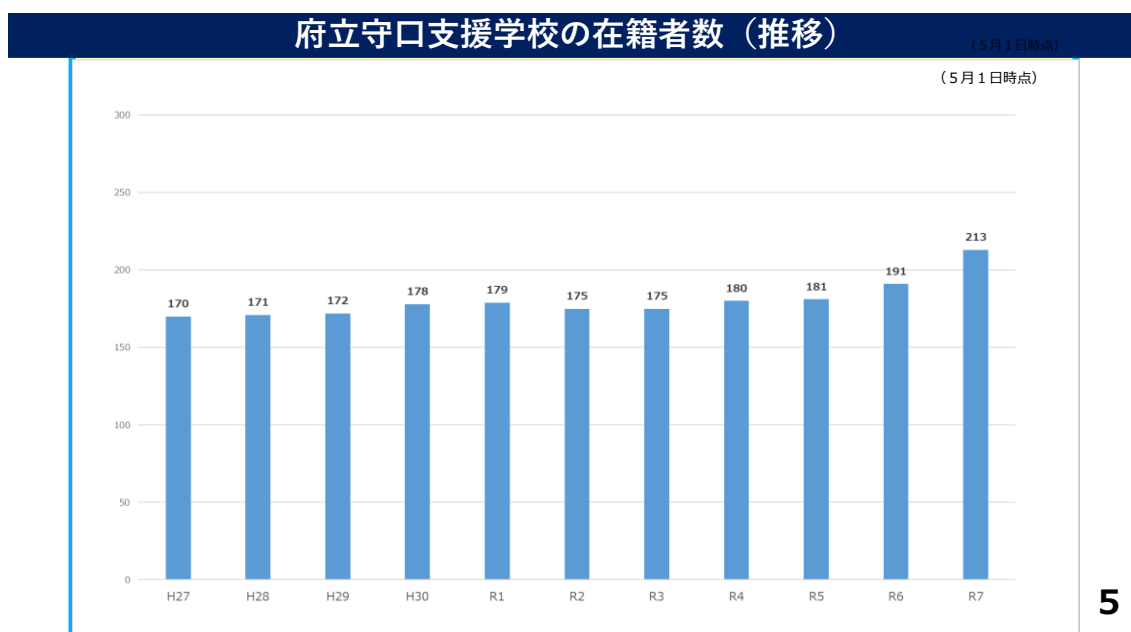
○引き続き、門真市をはじめ関係機関と連携し、古川の浮遊ごみ対策に取り組んでいく。

古川をはじめ、河川の浮遊ごみ対策については、根本的には、まちなかから河川へごみを流入させないことが非常に重要で、まちなかの清掃活動やポイ捨て防止の意識醸成が必要であることは理解しますが、小舟を利用した古川のごみ回収などについても、地元市や関係機関と連携して取り組んでいただきますようよろしくお願いします。



4-1. 守口支援学校の生徒数増への対応

私の地元、門真市在住の知的障がいのある子どもたちが通う守口支援学校について、本年3月の教育常任委員会で、「令和7年度に向けて在籍者の増加が見込まれる中、もし令和8年度以降も大幅な増加が続けば、子どもたちに適切な教育が提供できなくなるのではないか」と質問したところ、「交野支援学校四條畷校の本校化する令和11年度までの間は、在籍者数の増加に対応できる」との答弁がありました。パネルをご覧ください。



結果として、今年度、児童生徒は予想以上に増えており、学校現場では、子どもたちの教育環境を何とか維持するため、あらゆる工夫を凝らして対応していると聞いています。

全国的に少子化が進んでいるにも関わらず、支援学校の在籍者数がこれだけ増加しているということは、支援学校を選択される方の割合が以前に比べて増えているということです。

府教育庁でも在籍者数の推計を行っているとは思いますが、その想定を上回り、現場の状況が追い付いていないのではないかと。そういった現状を認識すべきと考えます。

保護者からも、子どもたちの教育環境が十分に確保できているのかといった不

安の声が私のところに届いています。

私は、このような不安を払拭し、保護者の方々に安心していただくためにも、前もって何らかの対策を行うべきと申してきましたが、まさに今、危惧していた通り在籍者数が増えている中で、どのような対応を行っていくのか。教育長にお伺いいたします。

<教育長答弁>

○府教育庁では、守口支援学校を含む、北河内地域全体の知的障がい支援学校の在籍者数の増加に対応するため、令和 11 年度に向けて、交野支援学校四條畷校の本校化整備を進めている。

○今年度、守口支援学校の在籍者数が増加したことから、一部の特別教室を普通教室に転用したところ。四條畷校の本校化までの間については、在籍者数の増加による教育活動への影響等を考慮し、技術的な知見を持つ職員が学校現場に出向き、既存教室等の改修など、専門的な視点からあらゆる工夫を凝らして環境改善を図ってまいる。

是非ここも早い対応を強く要望いたします。

4-2. 四條畷校本校化に伴う通学区域割の見直し

現在の通学区域割によれば、門真市から守口支援学校に通う小中学部の子どもたちは、高等部進学時に通学先が寝屋川支援学校に変わることになっています。寝屋川支援学校に通学先が変わった子どもたちのうち、四條畷校が本校化する令和 11 年度の時点での高等部 2 年生、3 年生が、本校化に伴う通学区域の見直しによって、在学中に通学先が2度も変わるのではないかと。つまり、小中学部の時は守口支援学校、高等部になって、はじめは寝屋川支援学校に通い、途中で四條畷校に変更と合計3校に通うようになるのではないかと。これでは、環境の変化に影響を受けやすい子どもたちにとって大変負担になるのではと、保護者も心配しています。

府教育庁としてどのように考えているのか。教育長にお伺いいたします。

<教育長答弁>

- 北河内地域の通学区域については、四條畷校の本校化に伴い、今後、見直しを検討することとしているが、議員ご指摘の当該寝屋川支援学校高等部2年生、3年生の通学先においては、進路指導の継続性等の観点から、原則として通学先を変更せず、在学している学校で卒業していただく予定としている。
- 引き続き、北河内地域の子どもたちのより良い教育環境の確保に向けて、取り組んでまいります。

門真市に在住の保護者が、通学先の変更に関して不安を持たれるのは、門真市内に支援学校がないという門真市特有の事情が原因と考えています。府教育庁が行う通学区域割の見直しにあたっては、支援学校が所在する市の子どもたちの通学先が優先されること、例えば、守口支援学校は守口市在住の方が優先、また寝屋川支援学校は寝屋川市在住の方が優先ということで、門真市の子どもたちは調整弁に使われるのではないかと、保護者は大変心配しています。事実、平成23年には、門真市在住の高等部生は、守口支援学校の過密対策のために、寝屋川支援学校へ通学先が変更になりました。そのために、保護者の中には、「自分のこどもを支援学校に通わす時期には、支援学校がある地域に引っ越しした方がいいよ。」という方もいらっしゃいます。このような不安を払拭するには、門真市に支援学校を整備すべきであると、以前から申し上げます。

私のところに届けられている保護者や学校現場の先生方の切実な声に耳を傾けていただき、子どもたちの教育環境の改善に真摯に対応していただくよう強く要望して、質問を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。